

ころばん体操 出前講座 大原南公民館

平成28年9月6日(火) 9:30～11:00

参加者 計23名 (男性5名 女性18名)

I・「いつまでも自宅で暮らすために」・・・(在宅医療)

いちき串木野市包括支援センター 保健師久保小百合

今、行政と地域医療や介護の機関と共同で在宅医療と介護連携の推進を進めています。いつまでも自宅で過ごしていただくために、どんな支援が必要かなどをみんなで検討しながら実現できるように進めています。今日は、在宅医療の訪問看護についてご紹介したいと思います。

II・「がんばりすぎない介護を応援します」マイライフノートについて

いちき串木野市医師会 在宅医療推進コーディネーター 南新 敦子

介護が必要になったり、在宅医療や介護の心配な時に少しでも介護の負担を軽くしたり、心配ごとの相談を聞いてサポートしていきたいと考えています。

マイライフノートは、もしもの時のために、ご本人の思いや介護や治療についての希望などを書き留めておくノートです。お元気な時にご家族と一緒に考えておかれることも大事かもしれません。

【講話】～ 訪問看護ってどんなことをしてくれるの～

訪問看護ステーション「さくら」 所長 畑中勇二

訪問看護ステーションは3年前にできました。自宅で最期まで過ごしたいと思ってる人が治療や看護を受けながら家で生活することが在宅医療です。訪問看護の利用の方は約70%が自宅で亡くなっています。訪問で家族に看取られて亡くなる方を看ていいなあ・・・と感じています。この、いちき串木野市も自宅で最期を迎えられる町にできたらと考えています。訪問看護は24時間365日患者さんの相談を受けたり、心配な時は夜中でも訪問します。病状によっては入院の連携をします。訪問看護は、安心・お守りになるといえます。これから入院も施設入所もなかなか入れない状況になってくると思います。そのために自宅で療養や治療することも多くなるかもしれません。



参加者の声

- ・「やっぱり一人では死んでいけないもんね・・・誰かに世話にならんといかんもんねええ・・・」
- ・どこまで協力してもらえるのか・・・もっと教えてほしい。
- ・自宅にきてもらうことが、部屋がきれいであればいいけど、他人の目を気にしてしまいます。
- ・二人暮らしなので相方共に体が悪くなったらどうなるかな・・・？できることなら子供に迷惑をかけたくないと思っている。

やはり、自宅で生活を続けたいと挙げられた方が多かったです。家族や子供さんたちに迷惑をかけたくないとの声もありました。訪問看護についてかなり興味深く聞いていただきました。アンケートでも参考になった。興味をもった。との解答を多くいただきました。